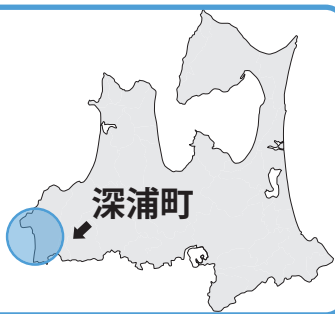


深浦町ミニデータ

- 人口 6,899人
(男 3,265人、女 3,634人)
- 世帯数 3,501 世帯
(令和6年6月30日現在)
- 特産品
クロマグロ、スルメイカ、サザエ、
つつるわかめ、ふかうら雪人参

【概況】青森県の西津軽郡にあり日本海に面している。東は世界自然遺産「白神山地」と連なり、海岸線まで険しい山岳地帯が迫っているため、県下5番目の大きさながら、森林原野が9割にのぼる。北前船の風待ち湊として栄え、文化導入の表玄関として発展してきました。



青森県の 市町村 情報

深浦町発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等をご紹介します。
今回は『グットイグナル』をご紹介します。
代表の山崎麻美さんにお話を伺いました。



▲「グットイグナル」の
山崎麻美さん。

町がぐつと良くなる「グットイグナル」 空き家活用への挑戦

今年1月に開業した「グットイグナル」は深浦町ただ1軒の不動産屋さん。宅地や建物の売買、空き家の活用や処分、空き家バンクへの登録サポートを行っています。でも普通の不動産屋とはちょっと違って、店頭で「高齢者のご用聞き訪問」というのぼりを掲げ、高齢者の買い物代行や困りごとへの対応も行っているというのです。

代表の山崎麻美さんはこれまで、病院や高齢者福祉施設で20年以上事務職を務めてきましたが、不動産業とは全くの無縁。本県西海岸地域に不動産屋が無く、空き家活用も進んでいない現状を知ったことがきっかけで「やるしかない」と一念発起し、開業を決意しました。合格率が2割を切る宅地建物取引士の資格を取るため勉強し、22年に一発合格。「夫と一緒に勉強してくれたのがありがたかった。」とその頃を振り返ります。

深浦町はこの8年間で倒壊などの危険が予想される「特定空き家」に50軒が認定され、空き家対策に力を入れています。実際に仕事をしてみて、空き家問題の大

変さを痛感したと山崎さんは明かしました。しかし「話しやすい人が来てくれたよかった。」とお客さんに思ってもらえることにやりがいを感じているといいます。空き家問題には高齢の方が関わっていることが多く、高齢者施設で介護員さんやケアマネさんたちの対応を見てきた経験が現在に活かされています。

6月には東京で開かれた「深浦会東京」の会合に出席し、160人の深浦町ゆかりの人を前に空き家の相談や不動産売買の宣伝を行いました。町の担当者の「家のことで困っている人は東京にいる」との言葉に後押しされて初めて参加した山崎さん。「深浦会の会場で相談は少なかったのですが、町との連携を強めて、困りごとに対応していきたいです。」と前向きです。

まちづくりの一助となるような交流の場をつくりたい

会社名の「グットイグナル」は、「ぐつと良（よ）くなる」を津軽弁にすると、「ぐつと良（い）くなる」になることから命名したものの。若者にも「面白くてよい」と好評です。

将来的には、自身のキャリアコンサルティングの資格を活かして、学生の進路選択や大人の学び直しの手伝いをするのが目標です。「自己物件をDIYで改修して、子供も大人もそこで勉強したり、ふらっと集まったりできる場所を作りたい。」と空き家活用の可能性は広がります。「使われていない空き家も壊すのではなく、活かしたら。誰もやらないなら私がちょっとやってみようかなと。」と山崎さん。思ったらすぐやってしまうのが私、と笑顔で答えていました。

私が男女共同参画を担当しています

深浦町 総合戦略課
企画調整係 主事
秋穂 健 さん



深浦町では令和4年に「第二次男女共同参画推進プラン」を策定しました。

次の3つの基本目標を掲げ、持続可能なまちづくりを目指しています。

1. 性別に関わりなく一人ひとりが活躍できる環境づくり
 2. 全ての人が安心して暮らせる社会づくり
 3. 男女共同参画社会に向けた意識づくり
- 昨年11月、西北地域男女共同参画ネットワーク「参画まぐ・ねつと」会員の皆さんと「女性が地元を離れるワケ」という講演会を実施。グループごとに交流しながら議論を交わすワールドカフェ形式のワークショップも行い、意見を深めました。最近女性の起業家が活躍する機会が増えています。首都圏からUターンした人が十二湖の中に「そばいる茶屋」を開業したり、円覚寺のそばにラーメン屋「いわ谷商店」がつい先日オープンしたり。いずれも女性オーナーが元氣です。

これまで西北での空き家バンクの事業者は深浦町にはありませんでしたが、グットイグナルさんが地元の不動産屋として相談に乗ってくれるのは大変心強く思っています。もし深浦町出身で空き家を持っている人がいたら、是非グットイグナルさんに相談したり、空き家バンクに登録したりしていただけたらと思います。

(取材：千田 哲史)